説教ワンポイント

試みにあわせず

マタイ四・一～一一

我らを試みにあわせず…」と主の祈り。その試み」には二種類あると思います。一つは辛い、試練」としての試み」。もう一つは誘惑」としての試み。この二つは絡み合い、現れます。

四二歳で肺の病気で急逝した金子哲夫さんの奥様が今朝ラジオで回顧していました。彼は面白い口調で最近までテレビで活躍していた流通ジャーナリスト。病気が分かった当初死ぬことをとても怖がっていたそうです。友人から頑張れ」と言われると、ああ自分は頑張らないと生きていけないんだ」とかえって落ち込む。ただ、お坊さんが別れ際頑張って下さい」と挨拶するときだけは素直に聞き入れた。常日頃死が身近にある人の言葉は違ったといいます。旅立つ2カ月前、金子さんの心が大きく変わった分岐点がありました。まるで明日の天気を語るように自分の死について力を抜いて話すようになった。奥様に連れられスーパーで買った人参ジュースを飲んだ時今初めて流通というものが分かった」と目を見開いた。儲かるかどうかしかそれまで見て来なかったが、その背後には農家がいて運ぶ人がいてお店の人がいて…、その後ろに皆家族があり生活がある。この一本に人間の暖かさがいっぱい詰まっている。その暖かさに自分も生かされている。今やっと気づいた！

神の子なら石をパンに」との悪魔の誘惑をイエスははっきり退けました。ここで奇跡を使っても誰にも迷惑をかけないでしょうに何故？

人を生かす食べ物は自分の都合で作りだすものではなく、人々の苦労を通じ神さまからいただくものと知っていたから。主イエスの祈りに日用の糧を今日も与えたまえ」とあるように。

（二〇一七年三月五日礼拝より、津田記す）